

第2回総合計画審議会(共生分科会)意見及びその対応

【凡例】

○関連部分の章

章	分類
全	計画全般
は	はじめに
1	第1章 社会経済環境の変化と横須賀の基礎的な課題
2	第2章 計画の条件
3	第3章 重点プログラム
4	第4章 まちづくり政策
5	第5章 まちづくりの推進姿勢

○対応分類の番号

No.	分類
1	意見を踏まえ修正するもの
2	参考意見と捉え修正は要しないもの
3	既に基本計画素案に盛り込まれているもの
4	実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの
5	策定手法に関するもの
6	質問事項と捉えるもの

H22.2.9

No.	発言者	意見 内 容	関連部分				対応分類	考 え 方
			章	大柱	中柱	小柱		
1	吉川座長	資料2「人口・雇用・経済等に関する資料」で人口の昼夜間比率を見ると、横須賀市は藤沢市より低く、つまり昼間外に出ている人の割合が高い。雇用がなく出稼ぎの地域になっていると感じる。こういう現実をしっかり受け止めないと、横須賀の発展はない。つまり、雇用が無いと人は集まらない。雇用をどうするかがこの地域に必要な政策だ。	4	2	3	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	雇用に関しては、新たな産業を呼び込むことが最も重要と捉えており、「2-3-2 企業・研究開発機関などの誘致」で、雇用吸収力のある企業の誘致を進める。また、市内産業については、「2-3-1 既存事業者の新たな取り組みへの支援」、「2-3-4 ビジネスチャンスの創出・拡大」及び「2-3-5 産業を支える技術・人材支援」を小柱に位置付けており、産業全体の活性化を促すことで、雇用環境の充実に繋げていく考え。
2	吉川座長	同じく資料2の16ページに「保育園の待機児童」が載っている。これに関連して、個人的に北陸3県の状況を調べてみた。この地域は一人当たりの所得は全国的に低い。が、一家族あたりの所得が非常に高い。その理由は、夫婦で働く家庭が多いからだ。女性が働きやすい環境が整っていると思い保育園数を知人に聞いたところ、数は少ないとのこと。祖父母が面倒を見る家庭が多いそうだ。横須賀に置き換えれば、まずは待機児童は徹底的に減らす政策が必要だ。女性が働きやすくなり、家庭の所得も上がる。	4	3	1	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	保育園に関する施策は、「3-1-1 子どもを産み育てやすい環境づくり」で捉えている。待機児童の解消を図る具体的な取り組みは、実施計画で検討する。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
3	松本副座長	郊外住宅地の調査結果が示された。私も以前調査したことがあるが、結婚を機に通勤・通学の便利などところに住宅を求める子世代は多い。以前は、家賃が高く横浜や東京に住めなかったけれど、今では、徐々に簡単になってきている。開発が多かった1970年代の住宅地は、区画があまり大きくなく、主に核家族を想定している。また、住環境を守るために様々な規制をかけた結果、建替が進まない状況にある。さらに子どもの側からすれば、親との同居よりも、少し離れた通勤・通学に便利などところに住み、時々行き来できる環境を望んでいると思う。保育所を増やしたとしても、別居が減るとは一概に言えない。	4	3	1	1	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	ご指摘のとおり別居の理由は様々であるが、これを食い止める手段として、子育て環境の充実には効果が高いと考えている。「3-1-1 子どもを産み育てやすい環境づくり」を小柱で位置付けている。
4	吉川座長	待機児童がいるのは厳然とした事実だから、保育園はつくるべきだと思う。単純に考えても、働く女性は今より増えるはずだ。横須賀で、北陸3県のように祖父母が孫の面倒をみる環境を整えるのは難しいので、まずは保育園を増やすことが必要だ。全て市の負担ではなく、費用を負担してもらったりやり方もあるはず。	4	3	1	1	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	保育園の待機児童については、「3-1-1 子どもを産み育てやすい環境づくり」で捉えている。「まずは保育園を増やすことが必要」というご指摘については、実施計画を策定する際の参考とする。
5	木村(武)委員	私の周辺には、独身女性や離婚して子どもを一人で育てている女性がたくさんいる。このような女性の働く場は、スーパーや事務所が多い。また、私の知人も小さな民間の保育所を運営しているが、その母親の中には、夜の仕事をしたり仕事を求めて市外に出る人がいる。今の横須賀には雇用の場を増やすことが最も重要。特に大きな会社にはどんどん育てほしい。	4	2	3	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	雇用に関しては、新たな産業を呼び込むことが最も重要と捉えており、「2-3-2 企業・研究開発機関などの誘致」で、雇用吸収力のある企業の誘致を進める。また、市内産業については、「2-3-1 既存事業者の新たな取組みへの支援」、「2-3-4 ビジネスチャンスの創出・拡大」及び「2-3-5 産業を支える技術・人材支援」を小柱に位置付けており、産業全体の活性化を促すことで、雇用環境の充実に繋げていく考え。
6	吉川座長	保育園と雇用の場は、どちらか一方ではなく両方必要だ。ただ、同時に両方を充実させるのは難しい。まずは保育園の充実に力を入れるのも一つの考え方。	4	—	—	—	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	子育て環境、雇用環境とも重要な課題。プライオリティ(優先順位)を付けるとすれば、実施計画や事業の中で行う。
7	小林委員	人口は都市活力の源泉なので大切。市は人口増加を是としているようだが、環境面から考えれば、一定規模の人口で良いという見方もあるだろう。	2	—	—	—	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	新たな基本計画では、将来人口を実態に即した趨勢で捉えている。人口減を避けられない事実と受け止めつつ、可能な限りそのスピードを緩やかにすること、人口構成のバランスを図ることが目標である。適正規模という基準は設けていない。
8	加藤委員	YRPは東京から通勤する人が多いが、仕事が終われば帰ってしまう。ここで働く人が定住してくれるように、子育て環境の整備が必要ではないか。また、横須賀は土地が高いという評判が立たないようにすることも必要かと思う。	4	3	1	1	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	子育て環境の充実には、「3-1-1 子どもを産み育てやすい環境づくり」で捉えている。ご指摘のように、定住に寄与する有効な手段と認識しているが、YRPIに特化した施策という点については、実施計画や事業で検討する。また、土地の価格に関するご指摘については、今後の参考とする。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
9	加藤委員	雇用の場については、やはり企業に努力していただきたい。地場産業の役割も大きい。	4	2	3	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	ご指摘のように雇用の創出は企業に頼る部分が多いが、行政として出来ることは積極的に進める。特に、新たな産業を呼び込むことが最も重要で、「2-3-2 企業・研究開発機関などの誘致」で、雇用吸収力のある企業の誘致を進めていく。市内産業については、「2-3-1 既存事業者の新たな取組みへの支援」、「2-3-4 ビジネスチャンスの創出・拡大」及び「2-3-5 産業を支える技術・人材支援」を小柱に位置付けており、産業全体の活性化を促すことで、雇用環境の充実に繋げていく考え。
10	林委員	「2-3-2 企業・研究開発機関などの誘致」があるが、企業誘致について、市はどんな見通しを立てているのか。今、企業を取り巻く環境は厳しく、本社を残して工場や出先を整理している会社も多い。このような状況で、積極的に進めても難しいのではないのか。	4	2	3	2	6 質問事項と捉えるもの	特に製造業などは厳しい状況にあると理解している。しかし、環境や新エネルギーなど今後成長が期待できる分野もある。こういった分野を中心に、成長性があり雇用に結びつく企業の誘致を進めていく。
11	吉川座長	世界中で売れているアップル社のipod(アイポッド)は、部品は全て他社製品でこれを台湾で組み立てている。ローコストでつくり高い値段で売れるのは、音楽配信などの付加価値面があるからだ。今後は、モノづくりの企業より、こういった開発型ベンチャー企業の成長が見込まれる。企業誘致先として有望だと思う。ベンチャーが育つ環境をどう作るのかが極めて重要で、人をどう養成するのかという問題が出てくる。ビジネススクールやOJTを、商工会議所などが主体となり、外部と組むかたちで夜間授業などでやると良い。	4	2	3	2	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	企業誘致に関する具体策や誘致先は、実施計画や事業で検討する。ベンチャーが育つ環境づくりに関するご指摘については、今後の参考とする。
12	木村(武)委員	市役所には、企業誘致や起業支援を担当する部署はあるのか。	4	2	3	—	6 質問事項と捉えるもの	企業誘致は経済部企業誘致推進課が、起業支援は経済部商工振興課が担当している。
13	吉川座長	行政はハコモノを作る必要はない。むしろ、マネジメントに必要なノウハウを教えることと、企業間ネットワークの形成を支援することだ。中小企業は資本も小さく人材も多くないが、ネットワークを組むことでいくつかのものを作ることが出来る。人材をどう集めるかが重要で、経験者や上場企業の方などをネットワーク化することが求められる。	4	2	3	3	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	起業については、「2-3-3 新規事業者の起業支援」で、技術やアイデアを生かした起業の支援を進める。また、既存企業の新たな事業展開や技術開発を促すため、「2-3-1 既存事業者の新たな取組みへの支援」を位置付けている。これらの具体的な取組みについては、実施計画や事業で検討する。
14	高山委員	企業誘致を進めるには、企業に補助金を出さなくてはならない。赤字財政に喘ぐ横須賀市にできるのか。また、民間に任せるのか、あるいは市が積極的に動くのか、誘致に対する基本的な姿勢を教えてください。	4	2	3	2	6 質問事項と捉えるもの	基本計画では、喫緊の課題解決はもちろんのこと、同時に横須賀が持続可能な発展を遂げるための土台づくりに取り組む。そのためには、苦しい状況下でも将来に向けた先行投資が必要で、企業誘致はその一つ。インセンティブとなる優遇措置など、市ができることは積極的に進めていく。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
15	高山委員	「2-2 魅力あふれる農水産業の振興」とあるが、具体的に横須賀の農水産業の魅力とは何か。	4	2	2	—	6 質問事項と捉えるもの	都心近郊にありながら全国第7位(H18)の生産量を誇るキャベツを中心とした農産物と、県内第1位(H18)の生産量をあげている沿岸漁業は、横須賀の魅力であり、また強みでもある。
16	高山委員	農水産業が生き残る道として、今後は、2次の加工、3次の流通・販売・サービスに関わり6次産業化し、付加価値を高めることが必要であると、有識者などが提唱している。	4	2	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「2-2-1 地産地消の推進」では、市内における生産、流通、消費の拡大を目指す。この中で、市場を通らない農水産物の直販など、販路の拡大を図る。
17	高山委員	魅力ある農水産業を実現するにあたっては、まずは、担い手がいることが前提になる。そのために、安心して後を継げる状態をつくらなければならない。つまり、農水産業が「業」として成り立つ環境を整えることが必要だ。	4	2	2	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	ご指摘のとおり、後継者問題の解決には経営基盤の確立が重要と考えている。これを実現するため「2-2-2 意欲的な生産者への支援」と、「2-2-3 豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」を位置付けている。
18	吉川座長	農業、工業を問わず、魅力ある製品・商品をつくることは基本だ。消費者のニーズを考えるのは極めて当たり前のことだが、そう単純な問題でもない。農水産業については、地産地消も含めて多角的にやるしかない。そのためのインフラ整備は行政の仕事だ。	4	2	2	—	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「2-2 魅力あふれる農水産業の振興」では、行政の役割として、地産地消の情報発信や生産者の新たな取組みに対する支援のほか、基盤となる農地、漁場、漁港の整備を小柱で位置付けている。
19	吉川座長	イノベーションといっても、世界中で起きているわけではなく、限られた地域の話だ。「あそこに行けば仕事がある」という環境をいかにつくれるかだ。	4	2	—	—	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	新しい産業の育成・導入や魅力的で安定した基盤づくりを進め、企業誘致や定住に繋げていく方針である。
20	高山委員	地産地消の小柱の説明に、「様々な情報を広く発信する」と書かれている。安全・安心で新鮮なものを提供するにはそれなりのコストがかかる。消費者にとり価格は重要だが、行政には、安全・安心であることや品質が良いことを広く情報発信してもらいたい。	4	2	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「2-2-1 地産地消の推進」では、市主催のイベントや広報紙などの媒体を通じて、新鮮であること、また安全・安心であることをアピールしていく。具体的な取り組みは、「地産地消推進アクションプラン」に沿って展開する。
21	木村(忠)委員	日本は工業分野が突出して生産性を上げたが、農水産業や商業などの生産性向上は後に置かれてきた。例えば、農業に関して、カルフォルニアのサリナスでは採れたものをその場で真空冷却するシステムがあるが、日本では最終的に農協の手にわたるまでこういう処理は行われない。新鮮な状態で消費者に提供する工夫が必要だ。	4	2	2	1	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	「2-2-1 地産地消の推進」では、市場を通らない農水産物の販路拡大を目指しており、直販もその一つ。このような取り組みも、より早く消費者に届ける一つの方法と考えている。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
22	木村(忠)委員	農家がつくる野菜の中には、大量生産できないため市場で販売するルートが確保できないものがある。消費者に届ける工夫が必要ではないか。市もこうした取組みに力を入れているようだが、適正な価格で流通できるよう、市場の努力も欠かせない。	4	2	2	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「2-2-1 地産地消の推進」では、少量生産品の販路拡大も視野に入れている。適正な価格での流通には市場の努力も必要とのご指摘については、参考意見として受け止める。
23	木村(忠)委員	ニュージーランドの漁業は、短い労働時間で資源を守りつつ生産性を上げている。資源を根こそぎ採ってしまう日本のやり方は、考え直すべきである。	全	2	2	—	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	漁業の手法は市が関与できる問題ではないが、参考意見として受け止める。
24	吉川座長	徳島県に「いろどり」という会社がある。季節の葉や花、山菜などを販売する農業ビジネスで、すごい利益率を上げている。このように、消費者の視点でいろいろ工夫すると良い。例えば、1割、2割高くても安全でおいしいものを食べたいと望む人は少なくないはず。	4	2	2	2	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	「2-2-2 意欲的な生産者への支援」は、新たな取組みにチャレンジする生産者への支援を捉えた柱である。こういった支援を通じて、魅力的な事業が出てくることを期待している。
25	小林委員	施策体系全体を見た印象として、抽象的な方向性はよく理解できるのだが、誰がどのように行うのか、具体的なイメージとして伝わってこない。市の計画なので、市が「どこまでできるか」、「どこまでやるか」といったポイントを示したほうがいい。もう少し具体的に議論ができると思う。	4	—	—	—	6 質問事項と捉えるもの	今後、想定される事業をベースにもう少し小柱の説明を細かく記述する。しかし、基本計画は政策・施策の大きな方向性を示すものなので、具体的な事業名や、「どこまで」、「いつまで」といった定量的な目標値までは定めない方針。
26	小林委員	ごみの減量化・資源化の推進が、中柱4の「地球環境問題」に位置付けられている。しかし、ごみ問題のベースになるのは、中柱3の「快適な暮らしを支える生活基盤づくり」だと思う。地球環境問題で括るのは少々荒っぽい感じがする。	4	5	4	3	1 意見を踏まえ修正するもの	「5-4-3 ごみの減量化・資源化の推進」は、名称を「ごみの減量化・資源化、適正処理の推進」とした上で、中柱「5-3 快適な暮らしを支える生活基盤づくり」に変更する。
27	松本副座長	今議論している小柱は、次回でほぼ確定するということで理解してよいか。	全	—	—	—	5 策定手法に関するもの	小柱の名称まで確定する予定。小柱の説明文は、次年度の総合計画審議会で検討し確定する。
28	松本副座長	小林委員の意見は柱を修正すべきとの指摘であるが、このような意見も聞き入れてくれるのか。それがはっきりしないと、細かい中身に意見を述べていいのか、あるいは骨格の部分だけに限られるのか、判断に迷う。また、選択と集中という話があったが、発言を受けて全体のバランス(メリハリ)が変わるようなこともあるのか。	全	—	—	—	5 策定手法に関するもの	すべての中柱、小柱に関して、意見を出してほしい。柱の位置付けや名称など、どんな事でも構わない。選択と集中に関するご指摘については、施策体系は全施策を網羅的に示す部分なので、メリハリをつけるとすれば、第3章「重点プログラム」で対応する。
29	吉川座長	事務局の回答では、柱のレベルに関係なくあらゆる意見を受けるとのこと。ただし、どう反映されるかは別の議論だと思う。無責任ということではなく、自由にご発言いただいて、それから内容を詰めていくと理解した。	全	—	—	—	5 策定手法に関するもの	いただいた意見を踏まえ、事務局と庁内プロジェクトチームで修正案を作成し、再度、審議会にお諮りし決定いただく。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
30	木村(忠)委員	「2-5-1 拠点市街地の都市機能の強化」は、具体的にどんな姿を思い描いているのか。	4	2	5	1	6 質問事項と捉えるもの	中心市街地や主要鉄道駅等を中心とする拠点市街地に、それぞれの地域特性に応じて、商業、業務、文化、レクリエーション、居住などの都市機能を集積していくことを想定している。
31	木村(忠)委員	コンパクトシティは、冬場に動きがとりにくい雪国で発展したまちづくり。温暖な横須賀で必要なのか。	4	2	5	1	6 質問事項と捉えるもの	将来的な人口減少や少子高齢化の進行、また行政コストの増大に対応していくには、都市機能の拡大を前提としたまちづくりを見直す必要がある。現に谷戸地域など郊外の市街地では、空き家や空き地が多く発生しており、この傾向は一層加速すると考えられる。今後は、拠点となる地域へ都市機能の集積を図るとともに、日常生活が不便な郊外の市街地から、鉄道駅の周辺や丘陵部の住宅地、また幹線道路の沿道などへの住み替えを促進することで、市街地を集約し、効率的な都市経営を推進していく必要がある。
32	木村(忠)委員	平成町のマンションなどは市内間の住替えが進んだので、住宅に関しては集積もあり得るのかもしれない。しかしそれ以外で、中心市街地に集積すべき都市機能とは何か。	4	2	5	1	6 質問事項と捉えるもの	中心市街地や主要鉄道駅等を中心とする拠点市街地に、それぞれの地域特性に応じて、商業、業務、文化、レクリエーション、居住などの都市機能を集積していくことを想定している。なお、現在進めている「新港埠頭交流拠点計画」は、中心市街地における都市機能の集積に当たるもので、市内に点在する官公署の移転集約等を進めていく予定。
33	木村(武)委員	都市機能の強化とは、既存のものを熟成させていこうという考え方なのか。あるいは、既存のものを塗り替えたり、建て替えたりといった趣旨なのか。	4	2	5	1	6 質問事項と捉えるもの	既存ストックの有効活用と、再開発など、新たな土地利用により生み出すものの、2面性がある。
34	木村(忠)委員	商店街の店舗は、売り場面積が小さく稼ぎも少ない。集積するといっても、労働生産性を上げるには、例えば、衣料品の専門店なら60坪以上の売り場が必要だし、総合店ともなれば200～300坪が必要だ。具体的にどんなことを考えているのか。	4	2	5	1	6 質問事項と捉えるもの	商業集積に関して、基本計画では将来こういう状態を目指すという方向性を述べるに止めている。中心市街地の高度利用を促進し商業施設の集積を図ることなど、既に検討されている取組みもあるが、他の方法も含め、具体的な取組みは実施計画や個別の事業で検討する。なお、労働生産性の面から小規模店の限界を指摘のご意見をいただいたが、大型店と小規模店が互いに特徴や魅力を発揮できる、調和の取れた集積を目指す方針である。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
35	原田委員	「2-1-1 自然環境の保全」に関する意見だが、海の環境は山の緑と密接に関係する。今後も、開発で山が削られ緑が減れば、漁業に影響を受ける。	4	2	1	1	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「2-1-1 自然環境の保全」は、山の緑だけでなく、海や海岸なども含め広範に捉えている。緑の減少が漁業に影響を及ぼすというご指摘については、今後の参考とする。
36	原田委員	漁業というのは、単に採るだけではなく自分たちで種を作り稚魚を育てることも必要で、コストがかかる。しかし近年は、厳しい価格競争で農業と同じく後継者の問題に苦しんでいる。横須賀の漁業を残そうと思うなら、こういった面での対策にも力を入れてほしい。	4	2	2	2	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	農水産業は、横須賀の魅力であり強みでもある。その上で、安定した経営基盤の確立と農水産物を育む環境の整備は欠かせない要素と捉えており、「2-2-2 意欲的な生産者への支援」と「2-2-3 豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」を小柱に位置付けている。
37	原田委員	風致地区の山林はむやみとさわれないだろうが、開発がもっと続けば、自然な緑がなくなってしまう。作られた緑で、果たして緑といえるだろうか。また、自然な緑から湧き出る水は、海に対して大きな影響を持っているが、作られたものであれば違うものとなると思う。また、自然の緑をどこまで確保できるのか。当然、民有地が多いのだが、このあたりの具体的な考えがあれば教えてほしい。	4	2	1	1	6 質問事項と捉えるもの	ご指摘のように、「自然の緑」と呼べる環境も、現実には民地が多く、開発等の規制には限界がある。しかし、特に横須賀の骨格を形成している丘陵部の緑などに関しては、保全に向けた対策を進めていく。具体的な方針は、平成22年度にスタートする「みどりの基本計画」で示すこととなるが、土地利用を制限する法制度の活用や国営公園の誘致などを進めていく予定。
38	高須委員	公園整備に関する小柱があるが、子どもがポールで遊べる公園が少ないように感じる。是非、施策に盛り込んでほしい。	4	5	3	4	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	生活に身近な公園整備は、「5-3-4 公園の整備」で捉えている。親しみやすく、安全・安心で憩いの場となる公園づくりを推進していくが、整備する公園の形態や整備場所などについては、実施計画と事業で検討する。
39	高須委員	「2-5-4 歩いて暮らせるまちづくりの推進」で、街中への住み替えと公共交通の整備を進めるとしている。横須賀は丘陵地を開発した団地が多いので、公共交通の整備には限界があり、行き届かない場所が出てくるはず。枝葉への対策も漏れがないよう考えてほしい。	4	2	5	4	4 実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの	「2-5-4 歩いて暮らせるまちづくりの推進」は、郊外の市街地に住む方も含めて、だれもが自家用車に頼らず生活できる環境をつくるため、公共交通網の充実等を指す柱である。なお、公共交通網の整備等は、事業者依存部分が多いが、行政としてどのような支援ができるのか、具体的な方策を実施計画と事業で検討する。
40	加藤委員	都市機能の集積と言っているが、西地域は軽視されているように感じる。	4	2	5	1	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	都市機能の集積を図る対象は、中心市街地だけでなく市内各地域の拠点となっている「拠点市街地」も含まれる。西地域に関しては、林の周辺を拠点市街地に位置付けている。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
41	加藤委員	航空写真で見る姿と違い、実際は多くの緑が失われている。西地域は今でも介護施設が多いが、こういう施設は市街化調整区域でも建設できるので、今後更に増えれば緑がますます失われる。さらに、ゴミ処理施設の建設も予定されており、西地域が集中的にやられている。こういうことも計画で考えてほしい。	4	2	1	1	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	西地域は、大楠山、武山をはじめとする丘陵や、秋谷、佐島、長井の海辺など、本市の中でも特に自然に恵まれた地域である。今後も、この豊かな自然と調和の取れたまちづくりを推進していく方針である。なお、ご指摘の介護施設やゴミ処理施設などの設置については、全市的な視点で計画的に進めている。
42	青木委員	「2-5 市街地のにぎわいづくり」で示された小柱は、小柱間の整合に問題がある。仮に、「2-5-1 拠点市街地の都市機能の強化」と「2-5-2 魅力ある商業集積の促進」が実現すれば、「2-5-4 歩いて暮らせるまちづくりの推進」と矛盾する面も出てくるのではないかと。もっと、モビリティの充実を強調すべきだし、そうしないと市民に対してメッセージが伝わらない。	4	2	5	4	6 質問事項と捉えるもの	ご指摘の内容は、都市機能の集積を進めることで、拠点以外の地域が不便で生活しづらくなるといった趣旨と理解する。「2-5-4 歩いて暮らせるまちづくりの推進」は、郊外の市街地に住む方も含めて、だれもが自家用車に頼らず生活できる環境をつくるために、公共交通網の充実等を目指す柱である。
43	高山委員	「5-1 災害・緊急事態に強いまちづくり」の小柱を見ると、災害への事前対策に終始している。災害が起きた後の事後対策を盛り込むべきだと思う。	4	5	1	4	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「5-1-4 防災・危機管理体制の充実」では、災害発生時の迅速な対応を盛り込んでいる。
44	吉川座長	災害の予測はほぼ不可能なので、実際に起きた場合の対策が重要だ。	4	5	1	4	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	「5-1-4 防災・危機管理体制の充実」では、災害発生時の迅速な対応を盛り込んでいる。
45	松本副座長	一般的な住宅政策はどこに入るのか。市営住宅の管理は柱立てしてあるが、これだけで事が足りるかは疑問。	4	2	5	3	6 質問事項と捉えるもの	一般的な住宅施策については、「2-5-3 住環境の維持・保全」で捉えている。
46	松本副座長	防災や交通に関して、それぞれ所管のセクションが個別の計画をつくっているはず。こういった計画で示される内容を、どの柱で受けるのかがよく見えてこない。わかりやすく整理したほうが良い。また、「家が無くなったらホームレスになるしかない」といった住宅補助に関する施策はどこで見るのか。	4	—	—	—	6 質問事項と捉えるもの	市には多数の分野別計画がある。施策の構成や名称は計画ごとで多種多様のため、基本計画の施策を分野別計画の構成や名称に合わせる事はできない。また、施策として捉えるレベルも、詳細を示した分野別計画と大きな方針を示す基本計画とでは根本的に異なる。しかし、基本的な考え方は整合を図っている。わかりやすく整理した方が良いというご指摘については、今後検討する。なお、家を失った場合等への対策に関しては、「5-3-6 市営住宅の管理運営」と「4-3-3 地域福祉サービスの推進」で対応している。

意見			関連部分				対応分類	考え方
No.	発言者	内容	章	大柱	中柱	小柱		
47	木村(武)委員	横須賀にはファーストマイホーム制度がある。しかし、制度を知らない市民もいるだろうし、定住者を増やそうと思うなら、東京などで情報発信しているのか。	4	1	1	4	6 質問事項と捉えるもの	ファーストマイホーム制度に関する市外向けの情報発信については、これまで、京浜急行の中吊りや品川駅の構内にポスター等を掲示した。また、市長自らシティーセールスを行う際には、相手方の企業にパンフレットを配布している。
48	林委員	大柱2と大柱5に公園整備に関する小柱がある。2つの柱を立てるということは、公園整備に力を入れるということなのか。他の委員から、ボール遊びが出来る公園を整備してほしいとの意見があったが、ソレイユの丘は緑の公園がほとんどなく、子どもが遊ぶと砂埃がひどい。海外の公園づくりを見ると、芝生や緑陰を取り入れ、ボール遊びが出来る環境をつくっている。	4				6 質問事項と捉えるもの	「2-1-3 自然豊かな公園・緑地の整備」は、猿島公園のような自然を生かした公園の整備を捉えた柱。一方、「5-3-4 公園の整備」は、主に街中にある街区公園などの整備を捉えた柱である。本市の魅力である自然を生かした公園については、特筆すべきものとして2の大柱に別立てした。これについては、平成22年度にスタートする「みどりの基本計画」で具体的な方針を示す。また、その他の公園を含め、実際にどこにどのような公園をつくるかは、実施計画と事業で検討する。
49	林委員	自然豊かな公園といっても、猿島以外にはほとんど見当たらない。また、緑を生かすと言っても、緑の質(クオリティ)や種類は多様であることを理解しないとイケない。	4	2	1	3	2 参考意見と捉え修正は要しないもの	ご指摘のとおり、丘陵地、海岸など、場所によって自然の質や種類は異なる。しかし、方針や考え方を示す基本計画では、自然の質や種類ごとに公園整備の柱を設けることはしない。「自然を生かす」という大きな目的で捉えている。
50	林委員	大楠山の国営公園の誘致は現在どうなっているのか。あまり進んでないように聞いているが。	4	2	1	3	3 既に基本計画素案に盛り込まれているもの	現在も、三浦半島国営公園設置促進期成同盟会(神奈川県、横須賀市、逗子市、三浦市、葉山町等)を通じて、年2回、国に要望活動を行っている。また基本計画では、「2-1-3 自然豊かな公園・緑地の整備」で、引き続き国営公園の誘致を位置付けている。
51	林委員	今後、文章の修正があった場合には、変更点に色を付けるかアンダーラインを引くなどして、わかりやすくしてほしい。	全	—	—	—	5 策定手法に関するもの	修正箇所について、削除した部分は「見え消し」で、加筆した部分は「アンダーライン」を引くようにする。
52	小林委員	資料が多いので、少し圧縮してほしい。	全	—	—	—	5 策定手法に関するもの	なるべく、簡潔にまとめるようにする。
53	吉川座長	説明が長いほど、聞いてる方は頭に入らなくなる。何が言いたいのかをまとめ、要点を絞って説明してほしい。	全	—	—	—	5 策定手法に関するもの	なるべく、簡潔にまとめるようにする。